



松明

(令和7年1月・2月号) 2025 vol. 1



P5 12月27日の御用納め式（院長賞授賞式）より

「令和7年 年頭のごあいさつ」

独立行政法人国立病院機構福島病院 院長 杉浦嘉泰



新年明けましておめでとうございます。昨年は能登半島地震に始まり豪雨災害など自然災害に見舞われた1年でした。被災された方へお見舞い申し上げます。能登半島地震では当院からも2名の看護師が厚生労働省の広域看護師派遣要請により、市立輪島病院へ派遣され被災地医療機関の支援に当たりました。今後も大規模災害やCOVID-19のような新興感染症に対する広域医療支援に、国立病院機構の一員として取り組んで参ります。

さて、平成16年に独立行政法人化とともに国立郡山病院と国立療養所福島病院が統合され、国立病院機構福島病院として開院して20年が経ちました。この間、重症心身障害児（者）医療に加え、県中地域の周産期医療の中核として周産期母子医療センターを運用してきました。しかし福島県の周産期医療の集約化に伴い平成29年に周産期母子医療センターは閉棟となり、年々増加する医療的ケア児が適切な支援を受けられるよう重症心身障害児（者）病床が増床されました。これにより現在

は医療的ケア児のレスパイト入院を受け入れ、在宅医療支援にも取り組んでおります。また、高齢者人口の増加に伴い福島県でもパーキンソン病などの神経難病の患者さんも増加しており、平成30年から脳神経内科が開設され神経難病診療が始まりました。こうして現在は厚生労働省が定めた政策医療を担う施設として重症心身障害医療と神経難病医療に取り組んでおります。このように当院の役割は地域の医療的ニーズにあわせて変遷してきましたが、根底にあるのは基本理念である「納得の医療で地域や社会に貢献」であり、今後もその実現に努めて参りたいと思います。

本年も地域の医療機関と連携し、重症心身障害医療と神経難病医療の更なる充実を図り、福島県のセーフティネット医療に貢献できるよう、職員一同努めて参ります。本年は明るい兆しが見える年になりますよう祈念し、年頭のご挨拶といたします。

本号のご案内

- 令和7年 年頭のごあいさつ 1
- 新年を迎えて「今年の抱負」..... 2
- 療育日より 成人式 3
- 3病棟クリスマス会の様子～メリークリスマス！～... 3
- 5病棟 クリスマスイベント..... 4
- 6病棟にウルトラ聖歌隊が来ました!! 4
- 看護部日より 冬季の感染対策・これからの感染対策... 5
- 2024年院長賞・福島病院3大ニュースについて 5
- 外来担当医表 6

納得の医療で地域や社会に貢献

病院理念

福島病院では「納得の医療」で地域や社会に貢献を理念として掲げ、職員一同、●人間として対等な患者さんの目線に立ち、●分かり易い説明を行い、同意を得た上で、●安全・安心で質の高い、患者さんやご家族を始め、地域社会の方々、勿論病院職員など誰にでも納得していただける医療の提供を常に心掛けております。

新年を迎えて「今年の抱負」



栄養管理室
調理師長
佐藤 光一
(さとう てるかず)

●新年、明けましておめでとうございます。今年は来春に定年を控え、日々何事もなく健康的に過ごしていければ良いと思っています。

今年は調理師長として、見た目でも楽しんでもらえるような安心安全な食事提供を目指して取り組んでいきたいと考えています。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。



看護部 外来
看護師
柳 沼 裕美
(やぎぬま ゆうみ)

●新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

私は、外来でお子さん達と接していてたくさんのパワーをもらっています。

小児科外来は、発熱や体調不良による不機嫌、啼泣、活気がないお子さんが訪れる、というイメージですが、当院は、小児神経外来、小児発達外来という、専門外来が主であるため、外来受診するお子さんのほとんどが元気いっぱいです。(福島病院の特権でもあると思っています。)

そんなお子さん達と毎日接することで、お子さん達の笑顔を自分のエネルギーに変える関わりをしたいと思っています。そのために、お子さん達の笑顔を引き出す言葉や、工夫をすること、悩みや不安の多い保護者の方とポジティブな話題を共有し、診察室を少しでも明るい空間にすることを目標にしたいと思います。昨年は体調不良の時もあり、笑顔の少ない年だったので、今年は元気いっぱい、たくさんの笑顔で頑張りたいと思います。



事務部 企画課
契約係
鈴木 紫野
(すずき しの)

●新年あけましておめでとうございます。

これまで暮らしていた地域では、年末年始の雪景色が定番でしたので、雪がほとんど積もらないお正月はとても新鮮です。

私は福島病院に入職してから、もうすぐ2年になります。とにかく仕事を覚えることに精一杯で、未熟な点もたくさんあったかと思いますが、先輩方の温かいご指導のもと、今年は少しずつできることの幅を広げられた1年でした。この場をお借りしまして、心より感謝申し上げます。

旧年はちょうど年末に体調を崩してしまい、健康の大切さを痛感する年明けとなりましたので、まずは健康を第一に、そして皆様から教えていただいた経験をいかすことができるよう精進してまいります。

脱皮を繰り返しながらどんどん成長していく蛇のように、学び続ける姿勢を大切にしつつ、気持ちを新たに業務に取り組んでいきたいと思っています。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



研究検査科
医化学主任
須藤 里菜
(すどう りな)

●ヘビは脱皮をすることから、再生や変化、成長の象徴だそうです。また、巳年の人は辛抱強い、粘り強く物事を成し遂げることから、今年は節目の年として真面目にコツコツと働くこと・勉強すること・健康に気をつけることを目標に過ごしたいと思います。そうして積み上げたものが患者さんへの検査へ還元できるよう、努力してまいります。

今年もよろしくお願いいたします。



「成人の日」は大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を励ます日と定められているそうです。福島病院では、9月と11月に成人式が執り行われました。今年度は、3病棟から2名、6病棟から3名の新成人が大人の仲間入りをしました。久しぶりのご家族との対面や病棟スタッフから次々とお祝いの言葉が掛けられるとたくさんの笑顔が見られ、和やかな雰囲気の中で、式に臨むことが出来ました。式が始まり、杉浦院長から

お祝いの言葉が送られると、表情がより一層引き締まり、1つ1つ言葉を噛みしめているようでした。また、ご家族の方からの謝辞では「別の病院で生まれましたが、縁があって福島病院に来ました。ここで成人式を迎えることが出来たこと、嬉しく思います。」というお言葉を頂き、とても感慨深いものとなりました。新たに5名の新成人をお迎え出来たことを、スタッフ一同大変嬉しく思っております。改めて、成人おめでとうございます。

祝



今年もクリスマスの時期がやってきました。3病棟では、12月に入ってから、皆でクリスマスツリーの飾りつけをしたり、クリスマスソングを歌ったりと、少しずつクリスマスの雰囲気を高めていきました。12月16日(月)からは、クリスマス会を実施しています。毎年恒例となりつつあるクリスマス会ですが、サンタさんの

ことを心待ちにしている様子が見受けられました。サンタさんが登場する場面では、皆さん目を輝かせており、笑顔が溢れていました。プレゼントを受け取ると、中身が気になり、器用に袋を開けようと試みる方や、「ありがとう」とプレゼントを大事そうに抱えている方等、様々な様子が見られました。

活動前の紙芝居



サンタさん登場

クリスマスプレゼント



療育だより

5病棟 クリスマスイベント

療育指導室 主任保育士 小野寺 亜紀

5病棟では、12月26日にクリスマス会が行われました。午前、午後の2回に分けて実施したため、ほとんどの方が参加する事が出来ました。指導室の演奏を聞いたり、歌を歌ったり賑やかな雰囲気を楽しみました。最後にはサンタクロースとトナカイが登場し、皆さんの前でプレゼントを披露してくれました。

「Tさんは12月に入ると「サンタさんくるのかなあ」

と口癖のように話すようになりました。職員が教えたわけでもないのに、雰囲気を感じるのでしょうか？12月になると、サンタさんを心待ちにしています。私たち職員は、患者さん一人一人の気持ちに寄り添い、季節の行事を大切にしないといけないなあと思いました。今後も患者さんに楽しみや季節感が味わえるよう、いろいろな企画を考えていこうと思います。

牧師さんのお話を聞いてます



メリークリスマス!



プレゼントをもらいました



療育だより

6病棟にウルトラ聖歌隊が来ました!!

療育指導室 保育士 高橋 奈々

12月23日病棟にシスターに扮した小野寺主任、そして聖歌隊に扮した保育士が集結し、ハンドベルの演奏を行いました。コロナ後初!!チームの交流もありました。久しぶりという事もあり、初めは緊張している患者さんもいらっしゃいましたが、時間と共に緊張も解け笑顔が見られました。そして、あわてんぼうのサンタクロースの曲に合わせて楽器遊びをしていると、本物のサンタ

さんとトナカイさんが登場。一気にボルテージはマックス!!5つものプレゼントを頂き、最後にはサンタさんやトナカイさんと記念写真も撮りました。午後は看護師さんやSTさんもサンタの帽子やカチューシャで変装しプレールームにて楽しくクリスマスケーキを頂きました。

これから何が始まるのかな?



ウルトラ聖歌隊



サンタさんとトナカイさんがやってきました



今年も冬になり、感染症の流行時期に入りました。福島県内では、秋頃から流行しているマイコプラズマ肺炎に加え、12月には県内全域がインフルエンザの流行地域となり、新型コロナウイルスの患者数も増加しています。現在、福島病院では感染症の広がりが抑えられるよう、感染対策を強化中です。職員自身の体調の変化に早く気が付けるよう出勤時の体調チェックを行い、また職員同士での会話は必ずマスクを着用し、感染を防げるようにしています。これまでに国内の医療機関では、感染症にかかっていると気付かず入院や勤務をしたことがきっかけで感染症が広がることも多く起きています。当院でも、感染症の持ち込みと広がりを防ぐよう努めているところです。

令和5年5月に新型コロナ感染症が5類感染症の位置づけに変更となってから、1年半が経過しました。現在、当院ではコロナ禍以前の状況に近づけられるよう、感染対策を行いながら、院内体制の変更を検討中です。個人防護具や患者隔離の見直しに加え、面会に際しての時間

延長や検査方法の変更などを予定しております。病院に関わる方々を感染症から守れるよう、よりよい感染対策を考え、実践してまいります。本年も、皆様のご協力をお願いいたします。



2024年院長賞・福島病院3大ニュースについて

管理課 庶務係 森田 直美

当院では、病院の文化・経営面及び患者サービス等の向上を図ることを目的として「福島病院顕彰規程」を策定しております。毎年、その年に表彰を受けるに相応しいと思われる候補者を全職員からの推薦により募集し、その中から「院長賞」を決定しております。

2024年は第4期 Hospnet（情報系）の移行を円滑に行ったという理由から多数の推薦があった診療情報管理士の安藤正次さんが受賞しました。授賞式は12月27日の御用納め式の中で行われ、院長から記念品の贈呈がありました。

また、同時に募集した2024年福島病院3大ニュースは以下の通りになりました。

- 福島病院統合 20周年（独立行政法人化 20周年）
- レスパイト患者数の増加（新規 1.6倍）
- 初、退院後訪問実施し算定 Up



●外来担当医表●

外来担当医は都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。

【令和7年1月1日現在】

区	分	月	火	水	木	金
内科	1	安田千尋	安田千尋	安田千尋		
内科	2	佐藤由紀夫 (第1・3)				
内視鏡検査					安田千尋	
脳神経内科		伊藤英一	杉浦嘉泰	伊藤英一		杉浦嘉泰
小児科		福島医大	石井勉 氏家二郎	石井勉		河原田勉
専門外来 (発達小児クリニック)			石井勉 氏家二郎			河原田勉
専門外来 (小児神経外来)				石井希代子		
専門外来 (小児循環器外来)				桃井伸緒 (第2)		
小児専門外来		予防接種 (午後)				
整形外科		古川浩三郎		古川浩三郎		古川浩三郎
小児外科					清水裕史	
脳神経外科			福島医大 (第2)			

●完全予約制となります。予めご予約をお願いいたします。

- 受付時間は**午前8:30～11:00**までです。急患については随時受付いたします。外来担当医は、都合により変更となる場合がありますので、ご了承ください。
- 外来担当医表は令和7年1月1日時点のものです。その後担当医が変更になっている場合もありますので、当院ホームページ、院内掲示等をご確認下さい。

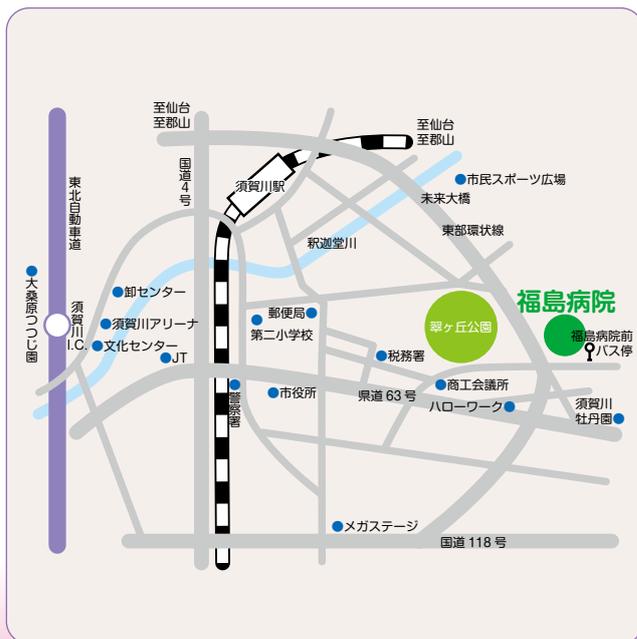
●専用ダイヤルをご利用ください●

診療のお問い合わせ・ご相談 (月～金 9:00～17:00)
診療の予約・変更等 (月～金 15:00～17:00)

専用ダイヤル 0248-75-2259

●編集後記●

2025年新しい年がスタートしました。皆さんはどんな1年の抱負を持たったでしょうか。
今冬の年末年始は、コロナとインフルエンザ感染症の大流行でこの医療機関も大変だったようです。まだまだ、流行は続きますが、体を温めて、美味しいものを食して、笑って過ごすことで免疫力が上がります。ウイルスに負けないように元気に頑張りましょう。(M)



National Hospital Organization Fukushima National Hospital
独立行政法人国立病院機構 **福島病院**

〒962-8507 福島県須賀川市芦田塚13番地
☎0248-75-2131 (代表)

<https://fukushima.hosp.go.jp/>